

## 道外におけるバイオマス活用の先進的事例

## ■南但広域行政事務組合における可燃ごみメタンガス化（※乾式メタンコンバインド方式）

## ○ 南但クリーンセンター施設概要

事業主体	南但広域行政事務組合（兵庫県養父市、朝来市）	
所在地	兵庫県朝来市和田山町高田817-1	
稼働年月	平成25年4月	
原料	可燃ごみ（生ごみ、紙類など）	
処理能力	バイオマス施設	36 t/日
	熱回収施設	43 t/日（H28年度処理量13,787 t/年）
発電（熱）量 又は生産量	発電機	382 kW
	発電量	2,067,102 kWh/年（H28年度）
	売電量	1,601,151 kWh/年（H28年度）
主要設備	トラックスケール、ごみピット、ごみクレーン、破碎選別装置、選別ごみミキサー、メタン発酵槽、脱硫装置、ガス貯留槽、微量有害物除去装置、ガス発電機、発酵残さ処理設備、分離水処理設備	
建設費	63億円（焼却施設を含む）	
支援事業等名	平成22～24年度 循環型社会形成推進交付金（環境省）	

## ○ 施設・処理システムの特徴

- ① 生ごみを分別せず可燃ごみとして収集し、機械選別の後、紙類などとともに乾式メタン発酵するバイオマス施設と、発酵不適物と発酵残さを焼却する熱回収施設を併せ持つ、乾式メタンコンバインド方式を採用。
- ② バイオマス施設では、乾式メタン発酵で得られるメタンガスで発電し、FIT制度を活用し売電。

## ○ 導入の効果

- ① 生ごみ等を直接焼却する場合に比べ、焼却対象ごみの減量、エネルギー効率の向上、CO<sub>2</sub>排出抑制に効果。
- ② バイオマス施設の導入により、従来は発電が困難だった小規模施設で高効率な発電（発電効率約18%）が可能。
- ③ バイオマス施設が「高効率原燃料回収施設」と認められ、循環型社会形成推進交付金の交付率が1/2になって、建設コストを削減。
- ④ FIT活用により売電収入が得られ、維持管理コストを削減。

